

長二洲 ながにしゅう 儒者、書家。天保四年九月二十一日豊後國生れ、明治二十八年二月十二日歿（八三十一歳）。本姓長谷、諱茂、字秋史・世章、幼名富太郎・光大郎、通稱生馬、長谷主馬、長茂。別號「二洲居士」、「二洲種客」、「二洲生、蝶生、靜妙子、韻華等。儒醫長梅外の長男。少時父の就學し、長じて清瀨淡谷の入門。戊辰戰に從軍。維新後大學少丞、文部大丞、教部大丞、一等編修官等々歴任し、明治二十七年東京府御用掛となる。また木戸孝允の重用せられ、その奏議の多くを書す。書を以て巖谷一六、白下部鳴鶴と共に明治二大家の數へられた。

著書「近世詩文・第一集」（合著・楢崎隆存編、明治十年十一月大阪・旗田靜七出版）、赤志忠七「唐詩帖」（長茂名、明治十一年二月十八日版權免許・稻田佐吉出版、兵庫・鳩居堂等七書肆發兌）、正書「出前表」

（同、明治十七年十一月二十一日出版々權所有届・山梨縣藏版、内藤博士衛門發兌）、佐田白茅著「國體一覽（兼習字本）」（書、明治二十

四年八月佐田白茅刊、吉川平七發賣）、二體千字文（長茂名、

明治二十六年十一月十五日齋藤利喜藏刊）、新撰手紙之文（明治

二十八年四月二十一日青木嵩山堂）、讀書文例（明治二十八年五

月二十一日青木嵩山堂）、松陰先生十規七則帖（再版、明治二十二年

十月二十一日青木嵩山堂）等。